

三島市立東小学校 いじめ防止等の基本方針

1 いじめに対する本校の基本的な考え方

いじめとは、「当該児童が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃（インターネットを通じて行われるものを含む。）を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」であり、起こった場所は学校の内外を問わず、判断はいじめられた児童の立場に立って行うものとする。

これらのいじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。しかしながら、どの児童にもどの学校にも起こり得ることから、学校、家庭、地域が一体となって、継続的にいじめ防止等に取り組むことが重要である。

したがって、本校では、学校長のリーダーシップのもと、いじめが行われず、すべての児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるように、保護者や関係者との連携を図りながら、学校全体で「いじめの防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが疑われる場合は、適切かつ迅速にこれに対処し、さらに再発防止に努めていくものである。

そこで、本校全教職員は以下のいじめ問題についての基本的な認識をもつものとする。

- (1) いじめはどの児童にも、どの学校にも起こり得るものである。
- (2) いじめは人権侵害であり、人として決して許される行為ではない。
- (3) いじめは大人には気づきにくく、判断しにくい形で行われる。（いじめの透明化）
- (4) いじめはいじめられる側にも問題があるという見方は間違っている。
- (5) いじめはその行為の様態により犯罪行為として取り扱う。
- (6) いじめは教職員の児童観や指導のあり方が問われる問題である。
- (7) いじめは学校、家庭、地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組むべき問題である。

2 取り組みの基本

- (1) 豊かな人間性を育む教育の充実を図る。
- (2) 早期発見、早期対応に努める。
- (3) 学校全体で組織的に対応する。
- (4) 保護者、関係者との連携を図る。
- (5) 継続的な心のケアに努める。

3 いじめ防止等のための対策

本校では、以下のいじめ防止等の対策を行うものとする。

(1) いじめ問題に取り組むための組織

ア 「いじめ防止対策会議」

全職員で構成する。担任だけでなく、全職員で見守る必要がある児童の表れの報告と対応の検討を行うとともに、「生活アンケート」の結果の検討と対策を話し合う。

イ 「いじめ対策委員会」

(ア) 組織等

いじめ防止に関する措置を実効的に行うため、管理職、生徒指導主任、教育相談

担当、養護教諭、当該学級担任による「いじめ対策委員会」を設置する。定例の委員会は、年度当初と学校評価結果の検討の際に開催する。また、必要に応じて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー及びスクールサポーターを含め、委員会を開催する。

(イ) 取組内容

- ・いじめ対策の体制整備及び取組・進捗状況の確認・定期検証
- ・教職員の共通理解と意識啓発、研修の実施
- ・いじめの状況把握及び分析
- ・いじめを受けた児童に対する相談及び支援
- ・いじめを受けた児童の保護者に対する相談及び支援
- ・いじめを行った児童に対する指導及び支援
- ・いじめを行った児童の保護者に対する助言
- ・専門的な知識を有する関係者等との連携
- ・三島市教育委員会の判断によって、重大事態の調査等を行う。
- ・その他いじめ防止に関わること
- ・いじめ解消のポイント

(1) 少なくとも3ヶ月以上は見届けをする。

(2) 被害児童が心身の苦痛を感じていなく、楽しく学校に登校できている。

ウ 「生活指導部会」

生活指導部会において日頃の児童の様子や気になるあらわれについて情報交換を行い、生活指導部会で取り上げた方がよいと思われる事案が出た場合は、「いじめ対策委員会」の招集を求める。

エ 「生徒指導情報交換」

- ・職員会議の中で、全教職員で該当する児童について、現状や指導についての情報の交換及び対応についての話し合いを行う。
- ・毎月月末の打ち合わせの時間を使って生徒指導に関する会を開き、情報交換や必要と思われる事案について具体的対策を検討・共有する。

オ 「東小学校地域いじめ防止対策委員会」

いじめ防止に地域で取り組むため、学校やPTA会長、学校運営協議会委員等による「東小学校地域いじめ防止対策委員会」を設置し、必要に応じて招集する。

(2) いじめの未然防止のための取組

ア 児童一人一人の自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動を推進する。

(ア) 一人一人が活躍できる学習活動

- ・すべての児童が授業に参加できる、活躍できる等「わかる授業」づくり
- ・規律正しい生活・・・チャイム着席、正しい姿勢、発表の仕方や聞き方等、生活指導部を中心に取り組みを考えていく。

(イ) 「ひと・もの・こと」とつながる喜びを味わう特別活動

- ・地域の特色を生かした「遠足」、「校外活動」などの学校行事を通して、人や自然、社会との関わりを豊かにする。
- ・児童会行事等における異学年交流の充実（ペア活動等）
- ・児童の自発的な活動を支える委員会活動の充実

イ いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。

〈 取り組み例 〉

(ア) 学校経営目標「みんな笑顔でウェルビーイングな学校」

学校経営目標に「みんな笑顔でウェルビーイングな学校」を掲げ、全校体制でその実現に取り組む。

(イ) 年3回の生活アンケート・教育相談週間の実施

年3回生活アンケートを実施後、児童一人一人と担任が教育相談を実施し、いじめの早期発見、安心して学校生活を送れる支援につなげる。

(ウ) 人間関係づくり

人間関係づくりプログラムを実施し、学級活動・児童会活動等でよりよい人間関係づくりを推進したりする。

(エ) 道徳授業の充実・・・体験活動と道徳の時間を関連づけた指導の充実を図る。

(オ) 人権教育の着実な推進

・年間指導計画に基づいて全校体制で実施する。

(3) いじめの早期発見・早期解決に向けての取組

ア いじめの早期発見に努める

(ア) 全ての教員が児童の様子を見守り日常的な観察を丁寧に行うことにより、小さな変化を見逃さない感覚を身に付ける。「児童がいるところには、教職員がいる。」ことを心がける。

(イ) 定期的実施する学年部会や生活指導部会及び月末に開催する情報交換会において気になる児童の情報を共有し、より大勢の目で当該児童を見守る。また、欠席したり遅刻や欠席が多かったりする児童に対し、教職員の初期対応について共通化を図った取組（電話や家庭訪問等）を実施する。

(ウ) 様子に変化が見られる場合には、教師が積極的に働きかけを行い児童に安心感をもたせるとともに問題の有無を確かめ、解決すべき問題がある場合には、教育相談やスクールカウンセラーとの面談で当該児童から悩み等を聞き、問題の早期解決を図る。

(エ) 年3回実施する「学校生活アンケート・教育相談」により、児童の悩みや人間関係を把握し、いじめゼロの学校づくりを目指す。

(オ) 実践的な態度を養う道徳教育の改善を推し進める。

イ いじめの早期解決のために、全職員が一致団結して問題の解決にあたる。

(ア) いじめ問題を発見したときには、学級担任等だけで抱え込むことなく、校長以下全ての教員が対応を協議し、的確な役割分担をしていじめ問題の解決にあたる。

(イ) 情報収集を綿密に行い、事実確認をした上で、いじめられている児童の心身の安全を最優先に考え、いじている側の児童に対しては毅然とした態度で指導にあたる。

(ウ) 傍観者の立場にいる児童たちにもいじているのと同様であるということを指導する。

(エ) いじめられている児童には、スクールカウンセラーや養護教諭と連携を取りながら、心のケアを行っていく。

(オ) 学校内だけでなく、関係機関等と協力をして解決にあたる。

(カ) いじめの取組記録の保管や引き継ぎを確実に行う。

(キ) いじめの事実確認や指導等対応を行うとともに、その結果を三島市教育委員会に月1回報告する。（月例報告）

ウ 家庭や地域、関係機関と連携した取組

(ア) いじめ問題が起きたときには家庭との連携をいつも以上に密にし、学校側の取組についての情報を伝えるとともに、家庭での様子や友達関係についての情報を集め

- て指導に生かす。学校内だけで問題解決をすることはしない。
- (イ) 生活指導部会で、成長過程等における側面から情報共有を図る。
 - (ウ) 学校や家庭にはなかなか話することができないような状況であれば、他の機関のいじめ問題などの相談窓口の利用も検討する。

4 重大事態への対処

生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑い（自殺を企画、身体に重大な傷害、金品等に重大な被害、精神性の疾患を発症等）や、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合、児童や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申立てがあったときは、三島市教育委員会の指導・助言のもと、次の対処を行う。

- (1) 重大事態が発生した旨を、三島市教育委員会に速やかに報告する。尚、学校は教育委員会からの判断を待つことなく、早期にいじめに対応する。
- (2) 三島市教育委員会から調査主体と調査組織の判断を受ける。
 - ア 学校が主体となる場合は、「いじめ対策委員会」が調査にあたる。ただし、必要に応じて、特別の利害関係を有しない第三者で当該重大事態の性質に応じて適切な専門家（スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター）等が組織に加わり、当該調査の公平性・中立性を確保する。
 - イ 学校主体の調査では十分な結果を得られない場合や、学校教育活動に支障が生じるおそれがある場合には、三島市教育委員会の附属機関「三島市いじめ問題対策委員会」が調査にあたる。「いじめ対策委員会」はその調査に協力する。
- (3) 上記組織を中心として、事実関係を明確にするための調査を実施する。
 - ア いじめ行為の事実関係を、可能な限り網羅的に明確にする。この際、因果関係の特定を急ぐべきではなく、客観的な事実関係を速やかに調査する。
 - イ たとえ調査主体に不都合なことがあったとしても、事実にしっかりと向き合う。
- (4) いじめを受けた児童・保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。
 - ア 調査より明らかになった事実関係について、情報を適切に提供（適時・適切な方法で、経過報告があることが望ましい）する。
 - イ 関係者の個人情報に十分配慮する。
 - ウ 調査に先立ち、得られたアンケート結果は、いじめられた児童や保護者に提供する場合があることを調査対象の在校生や保護者に説明する。
- (5) 調査結果を三島市教育委員会に報告する。尚、いじめを受けた児童又はその保護者が希望する場合には、いじめを受けた児童又はその保護者の所見をまとめた文書の提供を受け、調査結果に添える。

5 その他

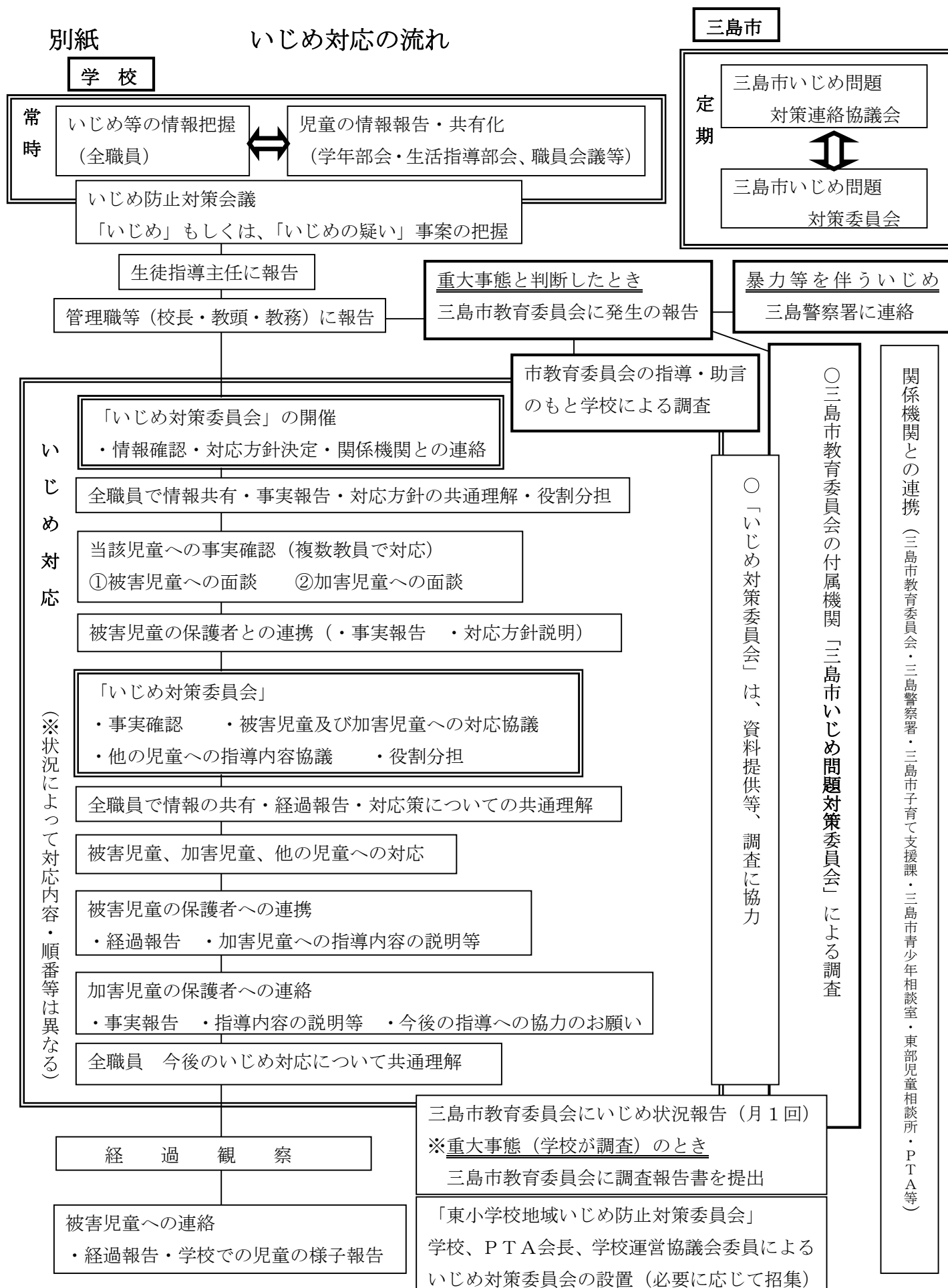
(1) いじめ基本方針の取組評価

三島市学校自己評価「いじめ問題への取組についてのチェックポイント」や本校学校評価の機会を使って、アンケートを実施し、その結果を踏まえて、いじめ防止等対策の取組が適切に行われたかを検証する。

- (2) 基本方針策定や改訂に当たっては、保護者や地域の方々に意見を求めたり、児童の意見を取り入れたりする。また、本校職員全員が意識や理解を共有する機会とする。
- (3) いじめ対応の流れ（別添）
- (4) いじめ対策の年間計画（別添）
- (5) 子ども・保護者の教育相談窓口（別添）

別紙

いじめ対応の流れ



※該当児童への面談等の記録 (担任等)

※事案への対応記録、いじめ対策委員会の協議内容等記録 (生徒指導主任)

いじめ対策の年間計画

月	担当	取 組 内 容
4	いじめ対策委員会 生徒指導主任 生活指導部 全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止等の基本方針の検討 ・ 関係機関担当者の把握 ・ 生活アンケート内容検討 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
5	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
6	担任 全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活アンケート実施・集計・対応 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
7	全職員 いじめ防止対策会議 いじめ対策委員会 担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の表れの報告・検討 ・ 6月までの生活アンケートの結果検討 ・ 三島市「いじめ問題への取組についてのチェックポイント」 ・ 保護者面談
8		
9	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
10	生活指導部 担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ対策強化月間 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
11	いじめ対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活アンケート実施・集計・対応 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
12	担任 全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者面談（希望） 各クラス、学年の様子 of 把握 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
1	教務主任 全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
2	担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活アンケート実施・集計・対応・今年度の取組の反省と次年度への検討と修正 ・ 週打ち合わせ時 各クラス、学年の様子 of 把握
3	いじめ対策委員会 担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの成果アンケートの結果検討、今年度の取組の反省と次年度への引き継ぎ事項の検討 ・ 次年度への引き継ぎ
定期的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設の教育相談 ・ 道徳教育の充実 ・ 児童の一日の振り返りや学校生活向上のための話し合い（児童会・学級活動） ・ 生活指導部会での情報交換・集約 ・ 打ち合わせ時間での児童生徒についての情報交換 ・ 月例報告（問題行動・不登校・いじめ） 	

関係機関と窓口

【関係機関】

三島市教育委員会	０５５－９８３－２６７１
三島市役所子育て支援課	０５５－９８３－２７１２

【相談窓口】

24 時間子供ＳＯＳダイヤル (文部科学省)	いじめやその他のＳＯＳに関する相談	０１２０－０－７８３１０
子どもの人権１１０番 (法務省)	いじめ、体罰、不登校、虐待といった子どもをめぐる人権問題に関する相談	０１２０－００７－１１０
三島市いじめ電話相談 (三島市小・中学校)	いじめ等の悩みに関する相談	０５５－９７６－０１１０
三島市家庭児童相談室	児童虐待・家庭における子どもの養育やしつけ、家族関係や学校生活等に関する悩みや相談	０５５－９８３－２７１３
三島市青少年相談室	主に小中学生の不登校など青少年問題に関する相談	０５５－９８３－０８８６
沼津地区 少年サポートセンター 三島分室 (三島警察署)	非行、不良行為、犯罪等の被害その他少年の健全育成に関する相談	０５５－９８１－０１１０
東部児童相談所	児童虐待・家庭における子どもの養育やしつけ、家族関係や学校生活等に関する悩みや相談	０５５－９２０－２０８５
ハロー電話 「ともしび」	子どもや保護者の悩み相談	０５５－９３１－８６８６
子ども・家庭１１０番	子育ての悩みに関する相談	０５５－９２４－４１５２
静岡地方法務局沼津支局	子どもの人権問題についての相談	０５５－９２３－１２０１
こころの電話 (東部健康福祉センター)	精神保健に関する複雑困難な事例に対する相談指導、思春期保健に関する相談指導等	０５５－９２２－５５６２

【「いじめ・暴力」相談メールコーナー】

ホームページ	http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/ijime/
携帯サイト	http://www.pref.shizuoka.jp/m/ijime/